



進路通信

宮城県立聴覚支援学校
令和3年9月21日発行
第19号 進路指導部

今年度の進路指導について

コロナ元年の令和2年度は、感染症拡大の影響を大きく受けつつも、生徒の粘り強さ、保護者の皆さんの御理解と御協力、そして教員のチーム力で必要な進路活動を行うことができたことは、昨年度末のPTA会報「たいこ」で述べたとおりです。年度が替わりまして、令和3年度の進路指導部のモットーは「再構築」です。コロナが収束に向かうとしても、単にコロナ以前の状態に戻そうとするのではなく、改めて本校の進路指導として必要なものは何かを考えることを、今年度は第一と考えています。進路指導部から保護者の皆さんへ、そして教職員への関わりを強くする1年となればと思います。引き続き御協力をお願いいたします。



中学部 進路講話（保護者対象）7／9（金）

7月9日（金）授業参観終了後、中学部保護者対象に、菅原宏行進路指導主事から、本校卒業後の進路について、また、就職するに当たり「必要とされる力」などについて講話を行いました。

進路の手引きを使い、本校卒業後の進路の実際について説明し、進路へ向けての見通しをもつことができたようです。保護者からは、有意義な時間だったという感想が寄せられました。この講話を受けて、夏季休業中に、施設見学をされた保護者もおられました。



高等部・専攻科 進路ガイダンス（保護者対象）7／21（水）

従来、高1保護者のみを対象としていた行事ですが、今年度は見直し、高専すべての保護者を対象としました。最終的に18名の参加がありました。内容は ①令和2年度進路状況、②在校生の進路活動、③就職、進学、福祉サービスの現状、④障害基礎年金について、⑤質問タイム とし、約45分間、進路に関するお話をしました。①～③は従来通りの内容でしたが、④は今年度から挿入した内容です。年金事務所から資料を取り寄せ、その資料を元に説明しました。年金についての考え方は様々です。そして就労の際の雇用形態や賃金もケースバイケースです。これらのことを総合的に判断しながら、「本人に合った」「長く続けることのできる」「障害理解のある場所で」の就労が実現できるように今後も取り組んでいきたいと考えています。